



# 私たちの 町議会 びらとり

ここが聞きたい **一 般 質 問** ..... P 2

行政報告・教育行政報告 ..... P 5

常任委員会報告 ..... P 6

議員全員協議会・特別委員会報告 ..... P 7

審議した議案

第7回臨時会・第8回定例会 ..... P 9

あの人に聞く ..... P 10

**vol. 105**

**2020.11.13**

▲アイヌの伝説の風景（ムイノカ）



# こころが聞きたい

## 一般質問

9月定例議会では、6名の議員から8件の一般質問がありました。

櫻井 幹也 議員

### 養護学校の卒業生に働く場を

#### 問

現在平取町と平取養護学校との間で行われている農福連携、農業実習を更に一歩進め、子どもたちが1人でも多く就業できるシステムを町の施策として構築すべきと考えています。障害のある子どもを持つ親御さんにとって子どもの自立は大きな夢であると同時に大きな悩みでもあります。高等部卒業後の進路が極めて狭い環境にある子どもたちにとって、農業などへの就業の可能性が高まれば、入学、進学する子どもたちは増えるものと考えていますが見解を伺います。

答（教育長）

来年度の進学希望の保護者説明会では、一般就労を目指す生徒の希望に添えるため高等部に職業コースを設置したこともあり、多くの保護者が高等部への進学を希望しています。結果、1学級増と決定したところです。このように農福連携による試みと卒業後の就業場所が確保されれば養護学校への児童生徒の入学、進学数は間違いなく増えるものと考えています。

えるものと考えています。

#### 問

一般就労の場合、まず住居の確保が重要で、生活の基盤となる障害者年金受給は20歳からで、卒業後の2年間の収入も含めどう対応するのか伺います。

答（保健福祉課長）

一般就労についての検討はまだしていませんが、平取福祉会のグループホームと就労支援事業所の利用をお願いするか、新たに事業所を立ち上げる方法があります。町としては、これまで支援をしてきている平取福祉会の事業所を利用することで、20歳までの生活は保障できると考えています。

#### 問

平取町が障がい者と共に共生社会を築く事で、農業分野における新たな働き手の確保や人口減少対策となります。加えて、養護学校の存続が商工業、地域の活性化に繋がると考えるのなら、卒業生が平取町で生活できる制度を構築するため、プロジェクトチームを早急に立ち上げるべきと思うがいかがが。

答（町長）

高等部の卒業生が自立を目指せる地域づくりも当町の役割と考えています。

ので障がい者や農家にとってもメリットのある仕組みを構築すべく、早急に体制を整え関係課連携して議論をしたいと思います。



△農作業の様子

木村 英彦 議員

### 自治会は町づくりの為に重要

#### 問

高齢者対策や防災活動など町の対応が難しくなっている中で各自治会の協力と支援が重要になると考えます。町は自治会活動を活発にするために何をすべきと考えているか伺います。

答（まちづくり課長）

子どもや高齢者の見守り、災害に伴う避難行動の支援など、地域、自治会単位の協力が大変重要だと見直されています。これからは地域と行政が協力して行うことが増えてくると思いますので、自治会の活動を活性化させる為に※地区担当員制度を活用し意見交換が進めたいと思います。

※地区担当員制度とは

町民による自主的な町づくりの発展のため、町職員が各自治会の所管地区を担当し、自治会と行政間の連絡調整、行政情報等の提供を行う制度。

### 日高山脈襟裳国定公園の国立公園化への展望と期待

#### 問

国立公園化のため2021年度中の指定に向け進んでいるという新聞報道がありました。町は様々な自然環境に関する施策を進めています。21世紀アイヌ文化伝承の森事業の中には平取町内の国有林すべてが指定の対象となりポロシリ岳も町の山小屋もその範囲に入っています。国立公園化が進む中で今後の対応をお伺いします。

**答** (町長)

町も21世紀アイヌ文化伝承の森事業の一環として、エリアの拡大や文化的景観事業との連動などを考えています。国の管理で貴重な日高山脈、特にポロシリ岳周辺の他にない自然を将来に残す事は、当町にとっても大事なことだと思っています。また国立公園になるとイメージアップに繋がりますので、今後どのような期待ができますので、今後どのような可能性があるか、エリアの設定、ネイチャーセンターの誘致や幌尻山荘の改築、林道の整備など、国の所管でできるのか環境省としての考えを早急に情報収集し検討したいと思っています。



△ポロシリ岳

## 金谷 満 議員

### インフルエンザ予防接種の実施体制は

**問** 高熱患者が出た場合、医療機関ではインフルエンザか新型コロナウイルスかの判断が難しく、混雑も予想されることから、インフルエンザの患者を減少させ病院の負担を減らすべきとの国の方針が示されています。そういったこともあり、例年より接種希望者が増えると思えるが実施はいつからなのか、ワクチンの確保は大丈夫なのか、また、「密」を避けるための夜間接種について考えるべきではないか伺います。

**答** (病院事務長)

平取町の昨年のインフルエンザ接種者は2025名であり、現時点で1820名分が9月末から10月当初に納品される予定であり、11月、12月においても購入できるようメーカーと確認しており、接種状況に応じて希望者に対応できると考えています。今年度分については、特に国においても最大約6300万人分のワクチンを供給予定していますので、確保は見込めるとしています。

10月1日に65歳以上の方をまず最初の接種者とし、10月26日からは医療従事者、妊婦、生後6カ月から小学2年生まで、そして基礎疾患を有する方などが接種可能となります。これら国の指

針に合わせて病院の方でも日程調整しながら進めていきます。また「密」を避けるためにも午前と午後に対応できるような体制を今検討中です。夜間接種については、今のところ国の指針に沿って対応していく考えです。

**問** 新型コロナウイルス感染対策交付金でインフルエンザ予防接種を高校生以上の接種者に対して半分の補助を計画されていますが、65歳以上の接種希望者は例年2分の1の補助ですが、今年度の特殊事情に鑑みて、全額補助の実施の考えはないか伺います。

**答** (町長)

すべての接種希望者に対して全額補助する考えは今のところ持っていない。確かに助成制度を手厚くすると接種者が増えることも考えられますが、やはり通常は自分の健康は自分で守るというような基本的な考えと事情を理解してもらえないような周知をした上で、現行の制度で実施していきたいと考えています。

## 四戸 正彦 議員

### 役場庁舎は安全なのか

**問** 胆振東部地震により、役場庁舎にも大きな亀裂が入りましたが、今もつ

て耐震の診断は行われていません。町長は所信表明の中で「住みやすく安心できる町づくりを目指す」と表明されていますが、この庁舎は職員が安心して働ける場所であるといえるでしょうか。町長は改築を迫られた施設等については、利便性や経済性などを考えスケジュールを明らかにすると表明されています。後期5カ年の6次総合計画に示されるであろう役場庁舎について改築の方向で進めるべきと考えますがいかがか。

**答** (町長)

役場庁舎は築後55年が経過し、新耐震基準に合致していません。職員が安心して働ける場所なのかと問われると、安心して働ける場所ではないのは明らかです。今後、後期5カ年の中で、その方向性について、示していきたいと思っています。



△役場庁舎壁のひび割れ

## 高山 修 議員

### 町内小中学校の 適正配置は

**問** 町内小中学校の児童生徒の減少を見るにつけ、改めて将来の町の教育のあり方や学校の適正配置について考える必要性を感じています。特に振内中学校においては令和6年度以降には、全校生徒が13名で、複式学級となる事が想定され、学校の適正配置についても再検討する時期と思われるが、どのように考えているのか伺います。

**答** (教育長)

現在、中学校での複式を実施しているところは、ほとんどなく、中学校になると高校進学の事や思春期で友達との関係性も深くなる時期でもあり、社会的規範や集団生活の中で学んでいくことなどを鑑みても、中学の複式は子供達にとって厳しいと考えています。しかし、学校の適正規模・配置については検討していく時期にあると考えていますが、行政が一方的に進めるものではなく、児童生徒の保護者や就学前の子供の保護者そして地域の方々の声を十分に反映しながら、丁寧な議論を行うことが、重要であると考えています。

### 平取町公共交通確保対策検討のための苦小牧 圏通学調査について

**問** 今回の調査項目は、①鵠川駅まで送迎する保護者の労力と経済的負担②転換バスの料金③転換バスの運行時間の3点です。この予備的調査項目についてはすでに把握されており、利用する通学生がどの位いるかについては事前面談で対応が可能であり、あえて鵠川駅までの無料バスに500万円を投じて運行を行う必要はないと思うがいかがか。また、静内高校への通学生も保護者が富川駅もしくは門別駅まで送迎しており、こちらについては対応していないが不公平ではないのか。

**答** (まちづくり課長)

現在、鵠川駅まで保護者が通学生を送迎する以外、方法がないという状況で、実際にバスに乗る経験をしてもらうのが重要と考えています。面談だけでは実態が見えない部分があるので試験運行が必要で、静内高校の通学生についても把握していますが、この事業では対応できないので何らかの方法を検討します。

**答** (町長)

この調査は通学生が対象ですが、一般町民にも拡大して調査を実施したいと考えています。また、町内運行事業者のコロナウィルスによる減収経済対策としての側面もあります。



△鵠川駅までの試験運行バス

## 松澤以久子 議員

### 介護職員不足の 対策を

**問** 2025年には団塊の世代が後期高齢者の年齢に達し、社会保障費の急増、医療や介護における人手不足が懸念されています。多くの施設を抱える平取町としても介護職員の確保が喫緊の課題です。平取町の介護人材確保のための平取町独自の支援、平取町内の介護職員初任者研修の実施について昨年、一般質問した際、検討するとの回答がありました。その後の進捗状況について伺います。また、即戦力となる人材を得るために、介護職として働

いていた人、資格を持ちながら職についていない人たちが、いわゆる潜在介護人材への復職・再就職支援が重要だと思いますが検討していく考えはないか伺います。

**答** (保健福祉課長)

今現在、①資格取得のため大学等へ就学する方に対する奨学金と平取町外の卒業生などを対象とした就業資金の貸付②資格取得のため奨学金を借りている方への補助③新たに町内の介護事業所等に勤務する場合、一定期間の家賃補助④キャリアアップのため資格取得をする場合、研修費用の一部を補助するこれら四つの要綱を準備中です。

今年、開催予定の介護事業者主催の初任者研修についてはグループホームの休止に伴い立ち消えになってしまいました。今後必要に応じて町主体での開催を検討します。潜在介護人材の復職・再就職支援についてはまだ準備等はしていません。

**答** (町長)

介護や医療現場の重要性をもっと見直し、一定程度の社会的地位と待遇を用意しなければ小規模自治体では人材確保は難しいため、待遇改善等を含め町としても支援体制を改めて検討したいと考えています。

**問** 職員不足のため閉鎖された振内にあるグループホームの今後について町としての考えを伺います。

行政報告

8月、9月に入り気温が高く、降水量も平年並みで、日照時間は例年よりも長く、水稲はこのまま順調に収穫を迎えることができそうです。牧草は後半、高温多照により順調に生育し、2番牧草の収穫作業は平年対比で7日早く進んでいます。トマトの出荷状況は8月末現在で数量8911トン、金額は30億1900万円、単価は339円と価格が安定し前年を上回る状況です。水稲の作付状況は品種別作付面積で見



△グループホーム

**答**（町長） 今後の運営については地域の福祉介護事業を担っている平取福祉会に対し協議の場に立つてもらうべく要請しているところです。

# 教育行政報告

□ナウイルスの感染症対策により臨時休校が続いた町内小中学校の6月以降の状況について報告いたします。

例年6月に実施していましたが中学校の体育大会、小学校の運動会は全て中止となり、それに代り学校によっては授業等の中で記録会などを実施しています。また、今年度は全国学力学習状況調査が中止となっていますが、町独自で標準学力調査を全小中学校で実施し2学期からの学習指導に生かしていく



### △作況調査の様子

まずと、ななつほしが前年より14・8ヘクタール伸びており、ゆめぴりかは前年より15・5ヘクタール減少しています。平取町全体としては、前年より1・7ヘクタール減少しています。

よう各学校に指示しました。また、授業時数の確保のため夏休みの日数を減らして対応しています。

今月は中学校の学校祭、文化祭が実施され、10月には各小学校の学習発表会が開催されますが密にならないよう工夫をしています。また、延期となっていました修学旅行につきましても小中学校それぞれ10月、11月に計画しています。

8月末に日高管内でコロナウィルスの感染者が出たということで平取町では非接触型の体温測定器を各学校に配置し、児童生徒の登校時に検温を現在実施しています。熱がある場合の対処についても各学校に周知しており、教職員間で共通理解のもと対応するよう指示をしています。

いじめを未然に防止するための児童生徒への啓発については学校・家庭・地域が一体となって行うことと、小さな芽のうちに周りが気付くための情報収集や子ども達の様子を細かく観察していくことが重要と考えています。そのため児童生徒へのいじめ問題に関するアンケートの結果を受け、各学校において児童に聞き取り調査等を実施し解決しています。ただ、「いじめはどんなことがあっても許されないことだと思えますか」との質問に、「いいえ」と答えた児童生徒が7名、「わからない」が42名となっており、このように考えている子ども達がいることを教

育委員会としても重く受けとめて、学校長に対し児童生徒への指導を徹底するよう今後も求めていきます。

平取町では「いじめ防止基本方針」により、町教育委員会、学校、家庭、地域また関係機関との連携をもとに共通の認識をもって、いじめの未然防止や全ての児童生徒がいじめ問題に関しての理解を深め、互いに尊敬、尊重し合う意識や態度を育てることを目指しています。いじめは、どの学校でも、どの児童生徒にも起こりうることを前提に児童生徒の心身に重大な影響を及ぼすという認識のもと、迅速かつ組織的に対応するよう努めています。

びらとり義経塾については、生徒及び保護者には大変好評であり、一人一人の学力、進路希望に合ったカリキュラムを組み立て個別指導によりきめ細やかな学習指導が行われています。アンケート調査等では子ども達自身も学力がついてきていることを実感しているという答えが多く出されています。

現在、平取町全体で、中学生が65・1%、高校生で52・9%の生徒が通っていることとなります。義経塾も□□ナ禍においては休講していましたが、臨時登校日には開放し、また振内地区においても臨時的に役場支所2階を使いながら開講していました。学校再開時から通常通り開講をしています。

## 総務文教 常任委員会

8月28日開催

### ◆平取町各小中学校を訪問

8月26日から27日に町内の学校を訪問し、学校経営について説明・質疑を行い学校調査を実施しました。今年度は、コロナウィルスの関係により、長期休校を余儀なくされており、児童への影響についても調査しました。

(生涯学習課)

**Q** 休校による学習時間の確保及び理解度についてはどうか。また、コロナウィルス関連対策での施設整備はどうなっているのか。

(櫻井)

**A** 学習時間は、各種事業の中止や夏休み期間の短縮により、確保出来ている状況です。また、学習面においてもCRT試験(標準学力調査)結果をみても、学力の低下は認められません。コロナウィルス等の対策については、水道の蛇口及び網戸の整備、教育振興関係では図書、旧式のガスコンロ等の整備についても対応します。



△学校訪問

(学校長から経営説明を受けている様子)

## 報告事項

◆苦小牧市に新設する特別支援学校について

来年4月に開校される学校は、小中学部併設校で寄宿舎がなく、スクールバスでの送迎を予定しています。新設の学校についての募集が、12月と聞いていますので、まだ平取養護学校への影響などはわからない状況となっています。

(生涯学習課)

**Q** 農福連携事業も実施していますので、町としても卒業生がこの町に残れる制度の構築をお願いしたい。(櫻井)

**A** 高等部卒業後の受け皿についての議論は常々しており、町として検討していくべきと考えています。

◆令和2年度不納欠損処分報告について

不納欠損処分について、報告がありました。各種欠損処分事項の合計は41件196万4千円です。(税務課)

◆防災の日を取り組み(平取町シエイクアウト2020)について

9月1日に防災訓練の一環としてシエイクアウトと併せて消防と町職員の避難所設営などを実施します。シエイクアウトとは町民が地震の防災メールを受信したと想定して、身を守る行動をとることです。

(まちづくり課)

## 協議事項

◆特殊勤務手当に関する条例の一部改正について

国の人事院規則の一部改正に伴い、コロナウィルスの感染症の防疫等作業に従事した職員について特例措置として特殊勤務手当を支給するため、国に準じて所要の改正を行うものです。

(総務課)

◆平取町防災会議条例の一部改正について

この条例は、町の防災計画の最上位に位置付けられており、計画の策定や見直しなどを協議する機関として防災会議が位置付けられています。現行22名で構成されているメンバーを災害な

どの頻発状況に鑑み、自衛隊関係者を加えて25名とする改正です。

(まちづくり課)

◆苦小牧圏通学等調査委託事業について

苦小牧圏への通学生は20名程度あり、現在は、通学手段がなく、保護者が鶴川駅まで送迎をしている状況です。このことから次年度の転換バスなどの運行に係る学生の意向調査として実際に乗車してもらいながら実施します。事業費については半年間で、500万円を予定しています。(まちづくり課)

## 産業厚生 常任委員会

8月28日開催

## 報告事項

◆「こころのホームふれない」の現状について

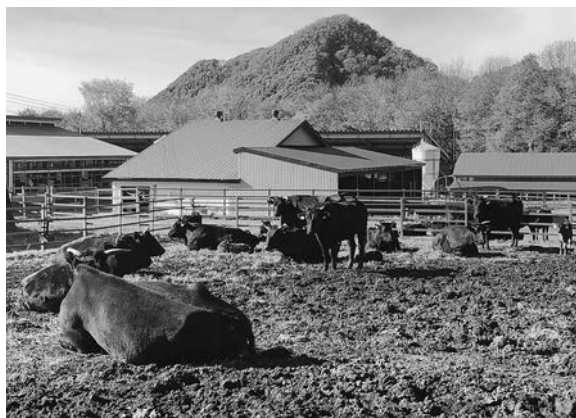
認知症グループホームから高齢者住宅へと用途を変更し運営してきましたが、8月末に3名が退職し施設側は職員不足の理由から、再開の目的が立たないと判断しました。今後、この施設については、方針が決定次第、再度、運営者と打ち合わせを行う予定です。

(保健福祉課)

# ◆令和2年度平取町畜産公社(第47期)

の決算状況について

コロナウイルス感染拡大の影響により2月以降の枝肉価格は1頭当たり109万9千円と伸び悩んでいます。事業全体の売上高は1億5105万7千円と前期より475万円の増となっていますが当期純利益はマイナス411万3千円という結果となりました。マイナス要因としては、町営牧場管理等にかかる受託事業収入の減、平成29年度からの増頭計画に伴う飼養頭数の拡大により職員を増員したこと、減価償却費の増、また売上原価の増により売上総利益が減収になった事が考えられます。(産業課)



▷畜産公社(宿主別)

## 協議事項

### ◆平取町カラマツ材利用促進事業補助金交付要綱の改正について

地元で生産されたカラマツ材を住宅等の構造物として利用することで、資源の用途拡大及び、付加価値の向上を図り、地域林業の活性化を目的にしています。多くの町民の方にカラマツ材の良さ、温もりを普及させるため、以前からの要綱を見直しをし、補助基準額を今年度から1立方メートル当たり5万円から8万円に引き上げをし、金額100万円を上限に改正します。(産業課)

**Q** この改正案は、増改築(リフォーム)にも適用されるのか。(松澤)

**A** 地元のカラマツ材を利用していただけなら、リフォームにも対応できるように内容を精査し、実施していきます。

## 議員全員協議会

8月28日開催

### ◆新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用する感染拡大防止策、医療提供体制の整備、地域経済

住民生活の支援としての事業計画について報告がありました。(総務課)

**Q** 第2弾のプレミアム付商品券発行は考えているのか。(四戸)

**A** 今後のコロナウイルスによる経済情勢の変化が想定出来ないもので、状況を判断しながら検討します。

### ◆医師住宅の建設について

当初計画では3棟の建設を予定していたが、敷地整備等により、今年度は2棟建設し、残り1棟は次年度に建設するとの報告がありました。(病院)

**Q** 3LDKの住宅3棟を計画していたが、院長住宅以外を2LDKに変更したのは何故か。(金谷)

**A** 現状の家族構成、病院の経営収支等も考えて面積を縮小しました。

### ◆平取町ホームページの不具合について

平取町ホームページ内に不正なファイルが発見され、一時休止しました。調査の結果、他に影響はなく、安全性が確認されたのでセキュリティ強化のうえ復旧したとの報告がありました。(まちづくり課)

### ◆JR日高線バス転換調整について

日高線廃止後にバス転換した場合の持続性、利便性を考慮した広域地域公共交通案の検討状況について報告がありました。(まちづくり課)

9月16日開催

### ◆新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について

8月28日に説明のあった新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用事業について、最終的な事業計画の報告がありました。国から平取町への配分限度額は2億8101万円です。主な事業は次のとおりです。

- ①中小企業事業者支援
- ②プレミアム付商品券発行
- ③マスク・消毒液等の確保
- ④医療提供体制の強化(隔離スペース整備、電子カルテ導入他)
- ⑤リモート化によるネットワーク
- ⑥大学生等支援(生活、住居)
- ⑦感染拡大防止備品整備(検温装置、消毒液自動噴射装置、非接触型体温計、換気装置、冷暖房等)
- ⑧肉牛、軽種馬産業等支援
- ⑨びらとり和牛消費拡大
- ⑩町内宿泊事業者助成
- ⑪インフルエンザ予防接種助成
- ⑫小中学校学習環境整備

(総務課)

**Q** 今年はコロナウイルスの影響があり、発熱で病院に来る人なるべく抑えるために、65歳以上の高齢者についてはインフルエンザ接種費用を無償にすべきではないか。(鈴木)

**A** 接種希望者が増えた場合のワクチン数の確保や町外での接種負担などを

考慮して、改めて担当課と協議して判断します。

Q 国保病院の電子カルテの導入費用2500万円は予算として十分ではなく、パソコン操作が出来ない医療スタッフの対応も含めて進めるべきではないか。

(金谷)

A 医療現場の受入体制、交付金財源の繰越しも含め、来年度を見据えて検討していきます。

## アイヌ総合政策推進特別委員会

9月15日開催

◆令和2年度アイヌ政策推進交付金事業について

新型コロナウイルスの影響により25事業のうち、4事業が中止となりました。全国の大学・大学院と地域の連携事業を追加し、事業費の合計は約2億7700万となります。イオル文化交流センターの建設は、今年度は実施設計、令和3年度本体工事、令和4年度駐車場などの外構工事を予定しています。

(アイヌ施策推進課)

◆平取町アイヌ文化振興公社事業について

▼平取地域イオル再生事業について  
シネチセ（ポロチセ）で行われている



△鳴き声録音機の設置

る伝承活動実践、ユカラと語りべ、アラワン（木彫り）、イワン（刺繍、織物）の各チセへの来場者についてはコロナウィルスの影響により前年よりも減少しています。

▼「21世紀・アイヌ文化伝承の森」プロジェクトについて

平成25年に北海道森林管理局と平取アイヌ協会、平取町の三者で協定を締結し、今年が協定の更新時期となった。協定の基本理念として、①北海道古来の森林の再生②文化伝承に必要な草木等の生物相の育成と回復、保全と活用③アイヌの人々や地域住民の雇用機会の創出④地域と国有林の協働・連携による森づくり⑤アイヌ施策推進法に則った森林の諸方策の積極的な実施とされている。主な取り組みとして、「コタンコロカムイ」（シマフクロウ）が持続的に生息できる空間の拡充業務の一環として鳴き声の調査と餌となる魚類調査等を行っています。

▼シリムカ文化大学について

文化振興、地域創成の施策課題と結び付けた講座として、それぞれテーマを決めて専門の先生による講座を行っています。年間8回のうち、既に3回を終了し、今後、「アオトラとジオパーク」、「イオルとウボボイ」、「日高山脈の国立公園化と自然文化遺産」、「文化的景観が照らす地域の歴史と未来」、「ミュージアム群の可能性」のテーマで開催を予定しています。

▼大学・大学院と地域連携（※大地連携ワークショップ）について

全国の大学、大学院生を対象としたアイヌ文化体験を2月に4泊5日で行います。会場は平取町アイヌ文化情報センターとチセ等で行い、講師は二風谷民芸組合員や平取アイヌ文化保存会会員、学芸員等が担当します。

※大地連携ワークショップとは  
大学生が地域に出向いて学ぶ、現地宿泊型の体験事業。

◆伝承者育成事業について

平成20年度から白老町で実施されてきた事業で、今年から平取町で実施します。昼間型の受講生は4名でアイヌ文化全般について授業・実習を行い、夜間型は二風谷アットウシと二風谷イタを学ぶコースがあり、それぞれ4名が受講しています。

特別委員会町内視察

◆10月8日に次の3箇所について町内視察を実施しました。

①旧上貫気別アイヌ墓地（旭、総主別林道内）

1915年（大正4）新冠町姉去より強制移住させられたアイヌの方々の墓地に1990年（平成2）に平取町が慰霊碑を建立した。この墓地から1933年（昭和8）に北大医学部により6遺骨が掘り出されている。

②イオル文化交流センター建設予定地（二風谷湖左岸野外ステージ上段）  
各種イオル事業の中核センターとして国のアイヌ交付金等で建設される。

③平取町アイヌ遺骨慰霊施設（二風谷）  
大学等に保管されていたアイヌ遺骨が国のガイドラインに基づき本年10月中に4大学から34遺骨が返還される。



△サスイシリ（アイヌ遺骨慰霊施設）

# 審議した議案

第7回

臨時会

令和2年  
8月6日

## ▼一般会計補正予算(第7号)

1710万2千円を追加

- ・新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金事業として
- ・マスク・消毒液等、非接触型体温測定器、空気清浄機など1301万円
- ・町民体育館PCB検査手数料81万円
- ・防災ネットワーク負担金 10万円

## ▼条例の改正

和田とも氏(荷菜)、鈴木透氏(幌毛志)、櫛田正嗣氏(貫気別)の3名を同意

・平取町職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正

・平取町防災会議条例の一部改正

・平取町災害対策本部条例の一部改正

・北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の一部変更(加入団体の変更)

・北海道市町村総合事務組合規約の一部変更(加入団体の変更)

・北海道市町村職員退職手当組合規約の一部変更(加入団体の変更)

## ▼財産の取得

・小学校教育用タブレット型パソコン

## ▼工事請負契約の締結

《仁世宇川沿線仁世宇1号橋 上部工製作工事》

## ▼工事請負契約の締結

・工事場所：平取町字仁世宇

・工事概要：工場製作工、鋼橋架設工、仮設工 各一式

・契約者：榑崎製作所

・契約金額：9625万円

・工事請負契約の締結

《仁世宇川沿線仁世宇1号橋 下部工外道路工事》

・工事場所：平取町字仁世宇

・工事概要：土工、路盤工、排水工、

・公平委員の選任

・山田和博氏(本町)を同意

・監査委員の選任

・和田与志男氏(荷菜)を同意

第8回

定例会

令和2年  
9月15日  
～  
9月16日

## ▷非接触型体温測定器



冒頭に遠藤町長から、所信表明がありました。

## ▼教育委員の任命

和田与志男氏(荷菜)を同意

## ▼監査委員の選任

山田和博氏(本町)を同意

## ▼公平委員の選任

・公平委員の選任

・橋台工、法覆護岸工 各一式

・契約者：榑平村建設

・契約金額：1億450万円

・一般会計補正予算(第8号)

1億5575万1千円を追加

・新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金事業として

・マスク・消毒液等、感染拡大防止備品、肉牛・軽種馬産業等支援、町内宿泊事業者助成、インフルエンザ予防接種助成、小中学校学習環境整備など

・緊急包括支援事業所費用(マスク・非接触型体温測定器、空気清浄機等) 69万円

・糠平・幌尻林道シャトルバス運行業務委託料 △1126万円

・シャトルバス待合所借上料△53万円

・苫小牧圏通学等調査運行業務委託料 504万円

・光ケーブル支障移転等費用 562万円

・平取町長選挙費用 △428万円

・障害者医療費国・道費負担金返還金 52万円

・小規模治山工事費(丸山地先) 500万円

・学校事務職員会計年度任用職員人件費 142万円

・自然体験交流事業用備品 △56万円

・介護保険特別会計繰出金 △32万円

・簡易水道特別会計繰出金 △200万円

・介護保険特別会計補正予算(第1号) 2804万円を追加

・介護給付費、地域支援事業国庫・道負担金等返還金 2804万円

・簡易水道特別会計補正予算(第1号)

・一般会計繰入金 △200万円

・簡易水道地方債 200万円

・令和元年度国民健康保険病院特別会計及び一般会計ほか各会計の決算認定について

・決算審査特別委員会に付託して審議を行うこととなりました。

▼意見書案の提出

次の4件の意見書案を可決し、関係行政庁へ送付しました。

◎新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書

【提出者：櫻井議員】

◎国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書

【提出者：高山議員】

◎地方財政の充実・強化を求める意見書

【提出者：高山議員】

◎「子どもの貧困」解消など教育予算確保・拡充と就学保障、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元教職員の超勤・多忙化解消・「30人以下学級」の実現に向けた意見書

【提出者：高山議員】



# あ の 人 に 聞 く

## 地域医療について・議会に望むこと

### 若い世代が安心して暮らしていくために



平取町国保病院長  
谷 新一 さん

猛暑の岐阜に耐えかね、涼しい北海道に逃げて来て早 16 年が経過しましたが、少子高齢化による人口減少を実感しています。この地域で暮らしている住民の方々が健康で、生き生きと暮らしていけるお手伝いが出来ればと思って日々、健診や外来及び病棟診療、予防接種等の業務に当たってきました。私自身の力不足もあり、どれ位患者さんたちの期待に応えられているか自信はありませんが、この病院で必要とされている間はもう暫く頑張ろうと思っていますので、機会を見つけて健診を受け、病気を早期に発見したり、体の不調を感じたら無理せず早めに受診をしていただければと思います。

次世代を担ってくれる若い世代の方が、この地域で安心して暮らしていくために仕事の確保や、子供の教育環境の整備などが大切ではないかと思っています。また現在はコロナ禍で、地方への移住を希望する人も多いと言われており、空港からも近く、美味しい食材もあり、気候も穏やかな平取の住みやすさをアピールすると共に、ネット環境の充実を図り、在宅での仕事出来るような支援も期待したいと思います。

### 地域医療で最近思うこと

振内診療所では内科外科を標榜していますが、実はなんでもない科です。自称ですが。易しいものだけ診て難しいものは専門医に紹介する、がモットーです。無責任に聞こえるかもしれませんが、実は逆なのです。ここでは十分な検査はできませんが、言葉のやり取りと聴診器があればかなりわかるものです。

在宅医療にも力を入れています。在宅医療を始めた理由は、ご高齢の方にわざわざ診療所まで来て頂き長時間待たせるのは申し訳ないと思ったからです。だから往診とは少し違います。薬は一軒一軒届けて頂いており、これがなかったら私の在宅医療も成り立ちません。

地域の皆様が安心して過ごせるように最善を尽くしたいと思います。

早朝沙流川沿いを歩きながら、暑かった今年の夏、いつ終わるとも知れないコロナ禍を思う時、人々の日常も穏やかな沙流川の流れのようであってほしいと願わずにはおれません。



振内診療所長  
藤井 陽一 さん